

特集

サイニー
先行研究の探し方 (CiNii以外の方法)

皆さん、学びあってるか〜い！今回は先行研究の探し方をレクチャーします。前号では CiNii を利用した研究論文の検索方法を紹介しました。検索してみましたか？卒業した先輩方に「先行研究を調べたか」と聞くと、「先行研究がありません」とよく言われました。でもそんなはずはありません。人類の知識が先人の研究によって蓄積されてきたという前提で考えれば、皆さんの研究テーマにつながる過去の研究が全くないということはありません。「つながる」と書きましたが、自分たちの研究テーマと同じことを扱っている先行研究は無くても、「つながる」研究は必ずあります。この「つながる」は「参考になる」と置き換えた方が分かりやすいかもしれません。

たとえば、アマゾンの奥地で未知の未開部族（この表現は不適切かもしれませんが）が見つかったとします。初めて見つかったのですから、当然、この部族について研究した論文はありません。ですが、他の部族について研究した論文はたくさんあるはずで、それらの論文に書かれている情報は、妥当な調査方法を考える際の参考になったり、未開部族を理解するための視点を提供してくれたりするはずです。過去に研究された部族と未開部族を比較することで、新しく発見された部族の理解が深まることも期待できます。

このように、「参考になる」先行研究は必ずあります。そのような、自分たちの研究テーマの周辺に位置づけられる情報を見つけ出すには、情報機器が大変役に立ちます。

今回は、情報機器を用いた情報検索はもちろんですが、図書館での資料検索についても触れたいと思います。また、参考文献の管理方法、参考文献としてリストに載せることのできる情報と、参考文献としてはふさわしくない情報との違いについてもお伝えしたいと思います。

1 ネット上のデータベースを利用しよう！

【新書マップ <http://shinshomap.info/>】

Google Scholar も論文や記事の検索には便利だよ！



検索ボックスにキーワードを入力して検索することで、関連する新書を探することができます。関連する「分野」も示されるので幅広く先行研究探しをすることができます。

【国立国会図書館サーチ <https://iss.ndl.go.jp/>】

国立国会図書館をはじめ、全国の公共図書館、公文書館、美術館や学術研究機関等が提供する資料、デジタルコンテンツを統合的に検索できます。

2 見つけた先行研究の参考文献リストを活用しよう！

学術論文や専門書には参考文献のリストが付けられています。参考文献リストを参照すれば、芋づる式に参考文献を見つけることができます。参考文献リストは、同じ研究テーマに取り組む他の研究者に対しての大事な情報提供になります。

3 図書館での参考文献探し

【県立図書館の横断検索 <https://www.library.pref.iwate.jp/>】



① ここをクリック！

② 書名など必要な情報を入力して検索！



すると、岩手県内の公立図書館、大学図書館の蔵書を検索した結果が表示される。必要な文献がどの図書館にあるのか調べられる！

【資料の取り寄せ】

検索した結果、遠くの図書館にしか文献がなかった場合は、最寄りの図書館で手続きすれば文献を取り寄せることができます。ただし、取り寄せには時間がかかります。さらに、送料も負担しなければなりません。手続き方法は最寄りの図書館で確認しましょう。

【複写依頼】

図書館には本の複写サービスがあります。たとえば、国立国会図書館には文献の複写を依頼することができます。複写したものを郵送してくれます。もちろん有料です。料金等はそれぞれの図書館で確認しましょう。複写の際は著作権法を遵守しましょう。

4 参考文献の管理方法

先行研究の文献は、最終的に論文の参考文献リストに記載します。その際に必要となる情報を予め管理しておきましょう。参考文献リストには、著者名、書名、出版年、出版社等の情報を記載します。雑誌論文の場合には掲載誌の情報、掲載ページも記載することがあります。このような情報を「書誌情報」と言います。書誌情報は、単行本の場合は「奥付（本の最後の方にあるページ）」、CiNii等の論文検索サイトを利用した場合は検索したページに記載してあります。

書誌情報も忘れずに収集し、予めエクセル等で参考文献リストを作っておくと便利です。

5 参考文献にしてはならないもの（ネットの情報は基本的にダメ！）

自分たちの研究の正しさを主張するためには、その根拠となった情報が確かなものであることを証明しなければなりません。そのためには、①信頼できる著者によって書かれた情報であること、②世の中に出るまでに何度もチェックを受けた情報であること、③探せば閲覧可能であること、などの条件をクリアする必要があります。

残念ながら、ホームページ上の情報は、①②の条件を満たさないことが多いのです。あるいは、満たしているとしてもそのことを確かめるのに手間がかかることがほとんどです。たとえば、学術論文の記載を引用したページがあるとします。元ネタは学術論文の情報ですから、①②の条件を満たすので参考文献にしても良さそうです。しかし、それはできないのです。なぜなら、引用記事は参考文献にできないからです。元ネタがあるなら、元ネタとなった学術論文の著者やタイトルを調べて、その論文を参考文献にしなければならないのです。

したがって、安易にホームページ上の情報を参考文献として扱えば、それは自分の研究が必要な調査を怠けた信頼できない研究であることを、自ら暴露したことになるのです。